

1 資産の概要

1.1 地方

栃木県・岡山県・大分県・茨城県（※構成資産の設立年代順）

1.2 資産の名称

（仮称）近世日本の教育遺産群（Educational Heritage from Early-Modern Japan）

1.3 所在位置

（仮称）近世日本の教育遺産群は、東アジアの東端に当たる日本列島の関東地方、中国地方、九州地方に位置し、6つの構成資産からなる連続性を持つ資産である。

現行の行政区分に基づく各構成資産の所在位置と保護の類型は、表1-1に示すとおりである。

表 1-1 構成資産と位置

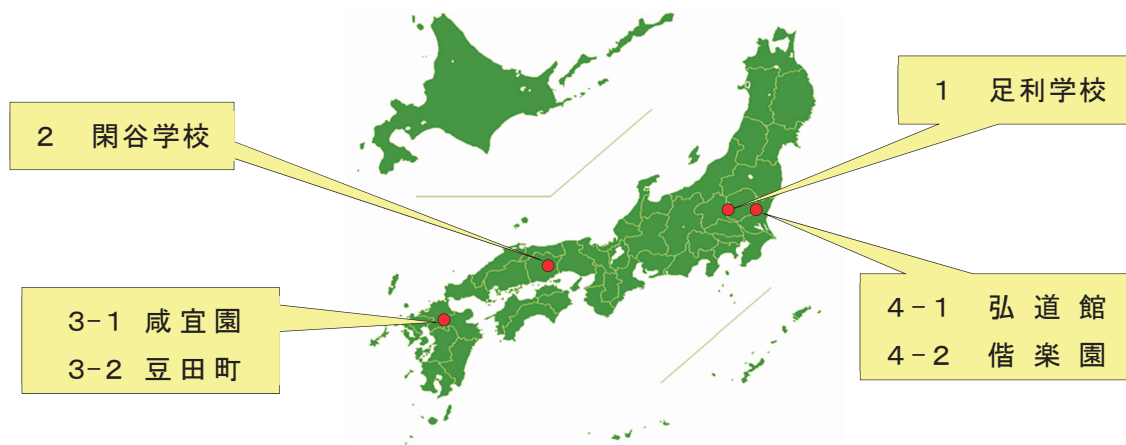
No.	構成資産	所在地	保護の類型 （いずれも 国指定または 国選定）	座標計測位置	緯度	経度
1	足利学校（指定名称：足利学校跡）	栃木県足利市	記念物（史跡）	大成殿	N 36° 20′ 09.35″	E139° 27′ 13.24″
2	閑谷学校（指定名称：旧閑谷学校）	岡山県備前市	記念物（特別史跡）	講堂	N 34° 47′ 46.93″	E134° 13′ 10.16″
3-1	咸宜園（指定名称：咸宜園跡）	大分県日田市	記念物（史跡）	秋風庵	N 33° 19′ 23.49″	E130° 56′ 06.74″
3-2	豆田町（選定名称：日田市 豆田町伝統的建造物群保存 地区）		重要伝統的建造物群保存地区	廣瀬家	N 33° 19′ 36.24″	E130° 56′ 11.70″
4-1	弘道館（指定名称：旧弘道館）	茨城県水戸市	記念物（特別史跡）	正庁	N 36° 22′ 31.27″	E140° 28′ 38.21″
4-2	偕楽園（指定名称：常磐公園）		記念物（史跡・名勝）	好文亭	N 36° 22′ 27.48″	E140° 27′ 09.87″

1.4 資産及び緩衝地帯の範囲図

資産の地図上の位置は、**図 1-1** に示すとおりである。

なお、今後、資産の保存管理及び緩衝地帯を検討し、緩衝地帯の位置・範囲及び法的保護区分を示す図面を作成していく。

図 1-1 構成資産の位置図



1.5 資産の面積

各構成資産の面積を**表 1-2** に示す。

表 1-2 構成資産の面積

No.	構成資産の名称	構成資産の面積 (㎡)
1	足利学校	18,179
2	閑谷学校	38,327
3-1	咸宜園	6,647
3-2	豆田町	107,000
4-1	弘道館	34,105
4-2	偕楽園	138,493
合計		342,751